読売新聞　県北・県西版　Ｒ７．３．２５



笑顔を見せる卒業生たち

秩父銘仙 巣立ち彩る

卒業生全員が和装で臨む、珍しい卒業式が24日、秩父市立南小学校で行われた。国指定伝統的工芸品の絹着物「秩父銘仙」に身を包んだ男女31人が、晴れがましい表情で母校を巣立っていった。

地域の伝統文化を継承しようと、2018年に始まった同小の行事。この日は朝から、市内の着物レンタル店のスタッフが学校に駆けつけ、着付けを行った。レンタル代の多くは同小PTAが負担した。

卒業生たちは、在校生や保護者らが見守る体育館にしずしずと入場。卒業証書を受け取り、「旅立ちの日に」を合唱した。

紺地に花柄の着物を着た卒業生の権田風夏さんは「在校生の時から楽しみにしていた。着付けの時からうれしかった」と笑顔で話していた。



「旅立ちの日に」を合唱する卒業生たち（いずれも24日、秩父市立南小で）